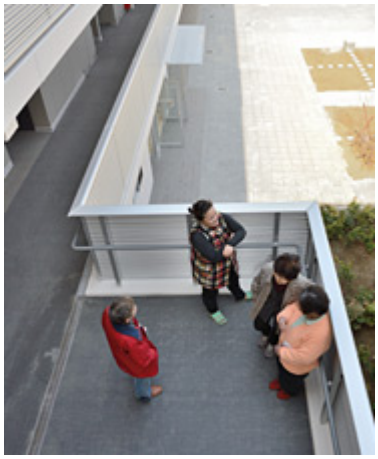
＋ WEBオリジナル

女川町営運動公園住宅の工夫
コミュニケーションを育む仕掛けを用意



上層階の外部廊下の幅を一部広げて、入居者が会話を楽しむスペースを用意した

女川町営運動公園住宅は、平成26年3月に災害公営住宅として完成した。入居者のコミュニケーションを育み、これからの公営住宅のあり方を見据えた工夫を随所に取り入れている。

入居する多くの方々が、これまで戸建て住宅に住んでいたことを考慮して、女川町営運動公園住宅は、あえて4階建て、3階建ての住宅として計画。建物と建物との間には緑豊かな広い中庭を取り、庭や緑を身近なものとして感じるよう配慮した。

その中庭やエントランスには、大きなベンチを設け、住人同士が腰掛けながら、ごく自然に会話ができるように設計している。また、地上階だけでなく上層階にも入居者が会話を楽しむスペースを用意した。各階廊下に幅を広げた“たまり場”として利用できる場所を設け、住人がしばしそこで世間話などを楽しめるように工夫した。

さらに入居者の交流を促すスペースとして、「ふれあいカフェ」を備えたコミュニティープラザや集会室も設けている。こうしたコミュニケーションを生むさまざまな工夫を取り入れることで、震災によりダメージを受けた地域のつながりを再び取り戻すことを目指している。

自然に入居者同士が会話を交わすことができるように中庭などあちこちにベンチを設けた